



一般社団法人
全国高等学校PTA連合会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会
(連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 牧田和樹 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org



会報
No. 88



広めよう 高めよう 慈しむ心 ～君たちがつくる希望の明日を～

全国大会佐賀大会

発行予定)をご覧ください。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

佐賀大会は分散型での開催でしたが、主会場から副会場への映像配信による映像は鮮明で臨場感あふれる画面となり一体感を醸し出しました。また、どの会場も会員が楽しめるように内容が工夫されており、担当した高校PTAの皆さんのチームワークの良さ、おもてなしの心が伝わる充実した大会となりました。

第68回全国高等学校PTA連合会大会 佐賀大会

S^{the 68th}
AGA

分科会報告



全国高P連研究発表

the 68th SAGA

SAGA REPORT 1

～AIとともに歩む未来～

「AIとともに歩む未来」をテーマに3部構成で行われました。

第一部は、リクルート進学総研所長小林 浩様より、昨年度行った「第8回高校生と保護者の進路に関する意識調査」の報告がありました。親と子のコミュニケーションの状況は、AIやグローバル化の変化を、子どもはポジティブに、親は不安に感じているが、親子間でなぜ勉強するか、な

ぜ働くのかの会話は少ない。「何々しない」は逆効果、まず「聞く」「尊重する」が大切。(レモンさんの基調講演に重なりますね...)「受け身」の子どもたちをどのように「主体的」にしてい

かが鍵で、親と話し合う子ども程、将来を考えることが「楽しくなる」との調査報告でした。早速、家庭に持ち帰り、昭和のICチップを外して(笑)、実践したいと存じ

ます。

第二部は東京大学政策ビジョン研究センター客員准教授 石山 洸様より、特に演題は無かったと記憶しておりますが(笑) 講演をいただきました。

愛する妻の病気と向き合い、AIを活用しプログラミングしてしまいうカッコよさから、目的意識を持つ大切さを改めて学ぶことができました。また介護スキームに

AIを活用することで効率化を図り、社会保障費や離職率・採用費の削減に繋げる事や人事評価で5年後を予測させる等の興味深いお話が続きまし

た。これら石山様の目的意識を持った社会の役に立つんだ!!との強い思いから、講演の演題は「AIを社会課題に役立てる事」と予測してみました(笑)

第三部のパネルディスカッションでは、会場のAIに対する???マークの雰囲気を感じたコイデイナーターの牧田会長と森崎副会長がAIを身近な話題に置き換え、会場目線に合わせていただきました。このような機会には出来ないのではないかと思います。AIは怖いものではない。AIを作る人とAIを使う人は別。AIという道具をどう使うか?様々な課題を解決するためのAIであってほしいと願うとともに、大切なのは目的意識を持つこと、愛する人のためにとか、誰かの役に立つとか、利他の心、思いやり心、なぜなぜと問いか

けるコーチング、慈しみの心について考える機会となり、子ども達を支えていくうえで、実り多い研究発表になりました。最後に、この分科会の準備設営に多大なるご尽力をいただいた、武藤祐子会長をはじめとする佐賀工業高校の皆様、スケジュール通りにまとめたいただいたコイデイナーター、パネラーの皆様、司会進行を務めた渡辺正和理事と会場の皆様に感謝を申し上げ、報告いたします。

(石川直哉理事・福島県)

第1分科会

the 68th SAGA

SAGA REPORT 2

学校教育とPTA

～地域の将来を担う人材の

育成とPTA活動～

昨今、地域が学校・PTAを支援するという考え方から地域と学校が協働して人材育成・地域振興を図る「地域学校協働活動」という考え方への

転換がなされています。発表して頂いた4校の発表を拝見して、4校は、まさにその「地域学校協働活動」を実践していると感じました。

秋田県立角館高校では、PTAではなく、PTCA Parents Teachers Community Association という名称を使い、地域社会の構成要素として生徒・住民が安心・安全な生活を送れるような環境づくりを推進しています。

また、保護者による模擬面談により生徒の就職活動を支援し、就職率100%を維持、離職対策として高校在学中のインターンにも取り組んでいます。

この活動は、自由参加ですが、約200名の生徒と保護者が参加し、生徒・OB・地域・市の間での深いコミュニケーションが図れるという効果も出ています。

奈良にある世界遺産をはじめとする地域資産を活用して教育を支援していることも特徴です。

沖縄県立久米島高校は、沖縄本島の西100kmにある久米島唯一の高校です。

松尾校長先生からは、4校の発表は、まさに、保護者と学校と地域の連携を深める上での好事例



佐賀大会シンボルマーク

第2分科会

the 68th SAGA



SAGA REPORT 3

進路指導とPTA

学校と保護者が協働する
キャリア教育

キャリア教育

第2分科会は、4校から事例発表がありました。

神奈川県立鶴見総合高等学校は「子供たちが輝くために」PTAは鶴見生の応援団」というテーマで発表され、子供たちの活動の場を創り応援するPTA、地域に愛される学校創りを応援するPTA、保護者自身も

楽しみながら子供達一人一人の輝く笑顔を応援するPTAをモットーとして、お母様たちによる素晴らしい寸劇を交えて様々なPTA活動が紹介されました。

富山県立上市（かみいち）高等学校は、経団連の調べで、採用担当者が面接の際に最も重要視すると回答された「コミュニケーション能力」につ

いて、PTAとしてどのように向上させられるかを検討し、実施している「模擬面接」と、生徒と保護者による対話会「チャットチャットと上市」が紹介されました。

例えば「なぜ働くのか?」といったテーマについて生徒が親以外の大人と話す機会を作り、コミュニケーション能力の向上に努めておりました。

三重県立朝明（あさけ）高等学校は、普通科にラグビーやレスリングのアスリートを目指した「アスリートコース」や「ビジネスコース」「チャレンジコース」、さらにふくし科の2つの科があり、昨年は63.6%の生徒が就職される中、生徒

の進路実現100%を目指して、PTAも積極的に学校行事へ参加されており、様々な活動が紹介されました。

鹿児島県立大口（おおくち）高等学校は、伊佐市の人口減少に伴い、昭和50年代全校生徒が1200人を超えていた学校が、今では1学年80名程度まで減少する中、存続のために伊佐市からの支援として国立大学合格すると30万円、難関大学に合格すると100万円などの進学奨励金がもらえるなどの支援内容が報告

されました。またPTAとして地域活性化、高大連携、同窓会との連携による「新大口塾ユズリハ」といった活動が紹介されました。

最後に、助言者の佐賀県立唐津東高等学校・中学校校長の渡辺孝一先生から、「生徒のためにそれぞれの学校の実情に応じたキャリア教育の発表でした。」とお言葉を頂き第2分科会は閉会いたしました。

（渡邊修造理事・愛知県）

第3分科会

the 68th SAGA



SAGA REPORT

4

生徒指導とPTA

主体的に考え行動する

生徒の育成

事例発表、4校有

・北海道旭川商業高等学校
生徒指導の3機能として、「①自己決定の場を
与える②自己存在感を与
える③共感的人間関係を
育成する」があり、子供
たちと共に歩む方法とし
て、「①保護者間の連携
②学校との信頼関係③子
供との話題作り」がある、
というような発表があり
ました。

・東京都立秋留台高等学校

「エンカレッジスクリ
ル」とは、生徒を励まし、
力づける。生徒のやる気
を育て、生徒の頑張りを
励まし応援し、その為の
きめ細かい指導を徹底す
る、というような発表が
ありました。・和歌山県立海南高等学
校大成校舎地域在住の子供たちと
共に成長し、地域社会の

創成を担う若者を輩出す

る。そして活動を通じ、
生徒が地域社会でできる
ことを、主体的に行って
いく姿を見ることができ
る。また、保護者が学校
と一緒に、生徒の成長
を促す活動を充実して
いきたい、というような
発表がありました。・徳島県立城ノ内中学校・
高等学校

活動目標として「①学

校とともに子供の手本と

なるPTA②学校を愛す
るPTA③寄り添うPT
Aから、向き合いそして
子供を社会へ送り出すP
TA」を掲げ、PTA活
動を通じ、社会へ巣立つ
子供たちの手本となり、
学校をサポートし、そし
て学校と運命共同体でな
ければならない、という
ような発表がありました。

事例発表に続き、2名

の方からご助言を頂きま
した。まず、佐賀大学教育学
部の松下教授より、生徒
の主体性を大事にする
↓教師はその援助であ
る。そして、学校が目指
している生徒指導に、P
TAも賛同する。また、
保護者と先生がお互いに
メリットのあるような活
動をすることが必要であ
る、というようなご助言
を頂き、続いて、佐賀県
立香楠中学校・高等学校
の真子校長よりは、生徒
が主体的に自分で考えて
行動できるようにする、
それには「スキル」が必要であり、生徒には基本
的な「スキル」を身に着
けさせ、後は自主的にさ
せるようにする。「主体性」＝「したい性」
である、と言うようなご
助言を頂きました。発表後の質疑応答も、
時間一杯まで活発に行わ
れ、大変充実した分科会
となることができました。
最後に、鳥栖会場でお
世話になりました、全て
の皆様方に心より感謝を
申し上げます。(山田博章理事・和歌山
県)

第4分科会

the 68th SAGA



SAGA REPORT

5

家庭教育とPTA

情報社会で問い直される

家庭教育とPTA

嬉野会場でおこなわれ
た第4分科会では4校の
みなさまに事例発表をし
ていただきました。まず初めに「岩手県立
大船渡高等学校」鎌田P
TA会長から、岩手県高
P連では、「夜九時以降、
スマホを通信手段として
使わない」という取り組
みを行っていること、ま
た、スマホ利用について、「家庭でのルール作りが必
要である」ことなどを単
P独自のアンケート結果
を踏まえ、今後も検証し
ていくながら活動を続け
ていくことを発表いただ
きました。次に「埼玉県立児玉白
楊高等学校」田島後援会
会長から、親子のコミュ
ニケーションづくりにつ
いて、単Pでおこなっている講演会を踏まえ、「子
どもと同じ目線を持ち、
学校と協働しながら、P
TAとして子ども達に声
をかけていくことが大切
である」という結論をア
ンケートとともに発表い
たいただきました。次に「新潟県立海洋高
等学校」浅野PTA会長
から、生徒の約半数が県
外からの入学制であることから、うまくネット環
境を利用して、学校と
「情報機器を活用して、学
校からだけでなく保護者
側からも情報を発信して
いる」ことを学校で行わ
れている海洋高校ならで
はの実習などを事例に発
表いただきました。最後に「山口県立萩高
等学校」の小畠前PTA
会長から、「情報機器から得ることができない人の
温もりが感じられる体験
の場をつくる」というこ
とを「生徒会・学校とP
TAによる懇談会」や「萩
往還を歩く会」などPT
Aがかかわっている行事
を事例に発表いただきま
した。その後の活発な質疑応
答の後、「佐賀大学大学
院学校教育学研究」岡教
授、「佐賀県立鹿島高等
学校」井手口校長よりご
助言いただきました。情報機器やインター
ネットを理解し、正しく
利用できる能力「リテラシー教育」が大切であり、
同時にコミュニケーション
能力の育成、学校だけ
でなく保護者や地域な
ど、多様な価値観を持つ
人々と協力・協働しなが
ら育み、PTA活動に生
かしていくことが大切で
あるということを学びま
した。発表・運営・参加して
いただきましたすべての
みなさまに感謝申し上げ、
報告とさせていただきます。

(三根広次理事・福岡県)

特別第1分科会

the 68th SAGA

SAGA REPORT 6

ICT利活用教育

ICT利活用教育の可能性について

ICT活用の全国トップといえば、佐賀県。

今回のテーマである

「ICT利活用教育の可能性」について、600名を超える参加者が集まり、会場は満席となりました。

全体構成として、前半は2件の実践事例発表、後半はパネルディスカッションを行いました。

まず、前半の実践事例1件目は、英語の授業。授業導入時に写真や動画を利用する。パソコンの音声認識機能を利用して、英語を話す文字に

変換でき発音の確認をする。また、宿題は音声で録音してデータで提出する。

る、といったような活用をしています。

実践事例2件目は、理科の授業。

70型の大型電子黒板と1人1台のPCを活用して、黒板では表現しづらい内容、例えば分子のミクロの世界の

説明をする場合、動画を表示して全体説明します。その後、生徒さんは個人ごとにタブレットを活用して、さらに理解を深めるとい

うような活用をしています。授業時間にゆとりが

授業時間にゆとりが



でき、「まず、1人で考えよう」、「次は2人でペアワークしよう」、「そして、4人で考えよう」と

いうような授業展開が可能となり、学びの質の向上が期待できるそうです。

後半のパネルディスカッションでは、教育庁、保護者、先生、高校生2名をパネリストとして迎え、それぞれのお立場でICTの利活用についてディスカッションをしました。

教育庁からは、佐賀県におけるICT利活用の

取り組みについて、数値を用いた説明がありました。

平成29年3月1日時点、電子黒板の整備率は全国平均24.4%。佐賀県では何と128.5%。県内すべての普通教室には電子黒板が設置されているそうです。

特別第2分科会

the 68th SAGA

SAGA REPORT 7

主権者教育

未来をつくるわたしたちの使命

前半は佐賀東高校、演劇部の皆さんより、「カセガワ高校生徒会長選挙」といった演題の演劇を力強く熱い想いを持って行っていた皆さま

前半は佐賀東高校、演劇部の皆さんより、「カセガワ高校生徒会長選挙」といった演題の演劇を力強く熱い想いを持って行っていた皆さま

また、休みがちな生徒に連絡を入れて票の確保をしようとする。生徒たちは、そうして選挙に対する様々な心の動きを表現した。そして、立会い演説会

を再現してそれぞれ公約を披露。生徒会長選挙によって生徒たちは、廃校となる母校に対する想いを表現しました。公民権を得るというこ

とは、こうして今までもあり身近に感じた事のないうちも少しづつ考えるようになり自分の意見を伝えるように意識が変化する模様を演じてくれました。

これに対してパネリストは、主権者教育の目的について質問を返答としてパネリストは選挙を通して、社会との繋がりが、関

取り組みについて、数値を用いた説明がありました。平成29年3月1日時点、電子黒板の整備率は全国平均24.4%。佐賀県では何と128.5%。県内すべての普通教室には電子黒板が設置されているそうです。

最後に心に響くフレーズが告げられました。「そのとき、日本は佐賀を見ていた」
「今、佐賀は未来を見ています」
もし、高校生に戻れたら、ICT利活用された山口先生の授業を受けてみたいと、心の中でそう思いました。
(池本義信理事・東京)

the 68th
SAGA

佐賀大会を終えて

佐賀大会実行委員長 西岡 豊



カセガワ高校生徒会長選挙 佐賀東高演劇部

明治維新150年を迎えた、歴史と文化の香りが漂う佐賀県での全国大会に全国各地から多くの会員の皆様に参加いただき、心より感謝申し上げます。この大会は、68回の歴史のなかでも数少ない形で会場分散型の大会で開催させて頂きました。いかがだったでしょうか。

私は、始めに自分の考えや思いを伝え「共に佐賀大会の色を探し作りましょう」と説明をして参りました。分散型の大会であるからこそ出来ることを考えました。準備段階から、主要スタッフの人数の多さから会議の回数・時間など、大変労力を必要としました。また、会場ごとに検討する課題があり、丁寧なコミュニケーション力が求められました。

私には、始めに自分の考えや思いを伝え「共に佐賀大会の色を探し作りましょう」と説明をして参りました。会を重ねるごとに、アイデアや工夫案が提案され、熱のこもった会議の日々でした。県内各地会場の味・空気・色や人の温もりを全国か



りました。会を重ねるごとに、アイデアや工夫案が提案され、熱のこもった会議の日々でした。県内各地会場の味・空気・色や人の温もりを全国か

りました。会を重ねるごとに、アイデアや工夫案が提案され、熱のこもった会議の日々でした。県内各地会場の味・空気・色や人の温もりを全国か

りました。会を重ねるごとに、アイデアや工夫案が提案され、熱のこもった会議の日々でした。県内各地会場の味・空気・色や人の温もりを全国か

ました。●選挙権年齢引き下げ実施2年目に思うこととして、パネリスト（教員）：若いうちから社会について考えるキッカケが増えた。しかし、選挙のみに、かたよりすぎているのではないかと？社会の構成員としての様になくはならないか。などが大切である。パネリスト（生徒）：自分の意志で選挙に参加す

るというように意識がかわった。しかし、若者が直面している課題はあまり触れられていない事も感じたなどのコメントがありました。●これからの主権者教育の在り方について会場から：選挙だけが挙げられているが、参加型民主主義を作っていくことが大切であると感じている。また、左が或いは右が良いということではなく、課題について議論を

深めることに重きを置くことが大切といった意見もありました。パネリスト（保護者）：バージョンアップしながらの教育を望む。パネリスト（教員）：示される政策を聴き自分の意見を、考えを持ち、自分の身近なテーマとして、捉えられるようになってもらいたい。パネリスト（生徒）：生徒は受け身を感じる事が多いと思うが、このよう

にデスカッション的な事が多くなると身近に感じると思うとのコメントがありました。●特別第2分科会のまとめとして・主権者教育とは18才を大人にする教育であること。選挙に行くこと。それは、権利と義務行使であること。主権者教育は選挙のルール等だけではなく、その動きと深みのある教

育が必要であるのではないかと、この発信でした。大変活発で気付きの多い素晴らしい分科会で、あったと思います。最後に実行していただきました、分科会の皆様に御礼申し上げ報告と致します。ありがとうございました。（佐藤康司理事・新潟県）

都道府県市連合会および加盟校のみなさまには、ご協力いただき大変ありがとうございました。全国3,963校を対象とする初めての試みでしたが、最終的には半数以上の2,143回答を得ることができました。各連合会事務局をはじめ、各PTAのみなさまに改めて御礼申し上げます。今回の主たる目的としては、新しいアンケートシステム実施のフロー確認にありました。紙を主体とすることではなく、インターネット環境で完結する試みで多方面にご苦勞をおかけしたとは思いますが、みなさまから頂戴した様々なご意見を活かして今後取り組みんでいこうと思えます。

回答結果としては、「情報収集・学び」という点でよく達成することができたとの意見が多くを占めました。その要因として山本シユウさんの講演がとても影響があったかなと思う結果となりました。また、研修の要望としては「コミュニケーション、人材育成、自己肯定感」といった項目が多くを占めました。こちらは今後各地区、連合会の取り組みにおいても反映できる内容かもしれません。

こうした生の声が集まることで各PTA活動の参考になると同時に、外部に対しての当連合会の意見として実に大きな力になると思います。引き続きみなさまの厚いご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(調査広報委員長 大石幸和)

the 68th SAGA 全国大会佐賀大会 アンケート結果

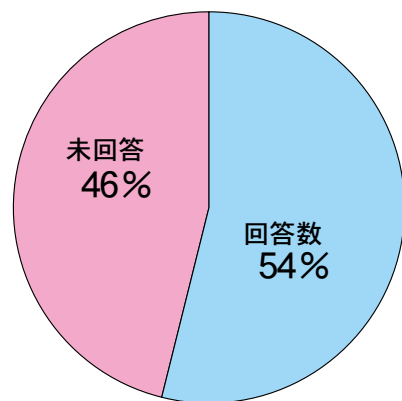


全国高P連アンケートシステム

the 68th SAGA 全国大会佐賀大会アンケート回答率

Q1

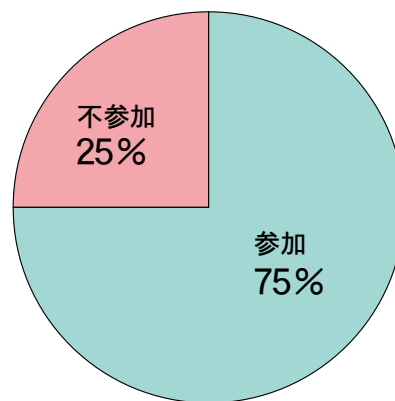
加盟PTA数	回答数	未回答
3,963	2,143	1,820



the 68th SAGA 佐賀大会には参加されましたか？

Q2

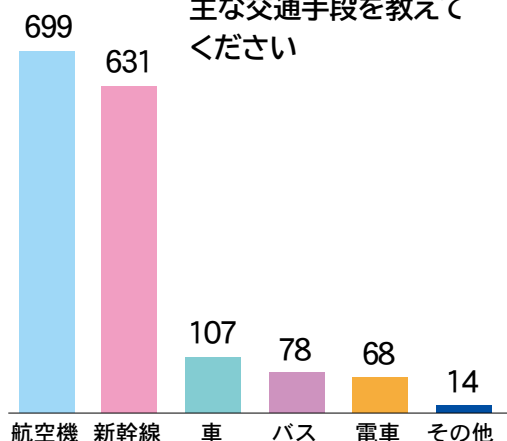
参加	不参加
1,597	546



the 68th SAGA

Q3

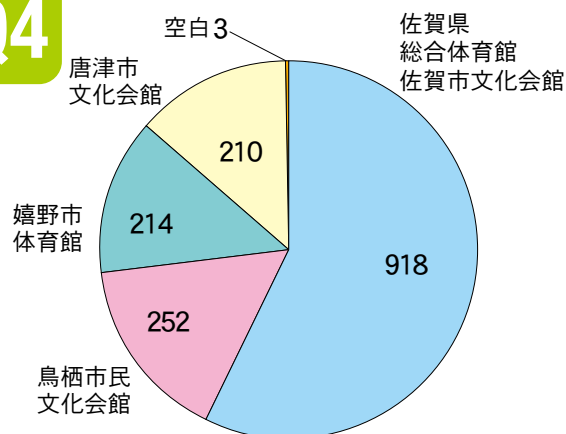
佐賀大会への
主な交通手段を教えてください



the 68th SAGA

Q4

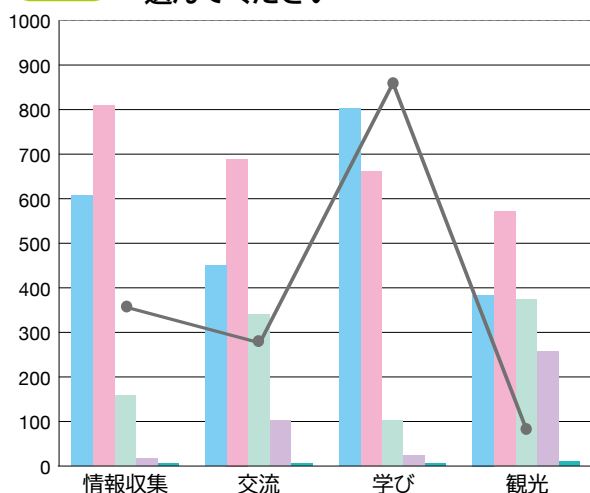
どちらの会場に参加されましたか？



S^{the 68th}
SAGA

Q5

代表的な目的についてお尋ねします。
満足度はいかがでしたか？
最も役立ったと思えるものを一つだけ
選んでください



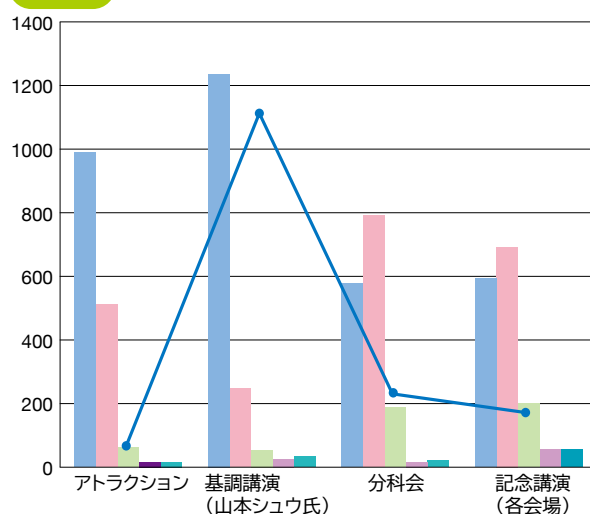
	うまくいった←→うまくいかなかった				空白	最も役立ったと思えるものを一つだけ選んでください
情報収集	608	809	158	17	5	360
交 流	451	698	340	103	5	280
学 び	803	662	103	24	5	865
観 光	384	572	374	257	10	86
空 白						6

1 うまくいった
2
3
4 うまくいかなかった
空白
● 最も役立ったと思えるものを一つだけ選んでください

S^{the 68th}
SAGA

Q6

大会の内容についてお尋ねします。
最も役立ったと思えるものを一つだけ
選んでください



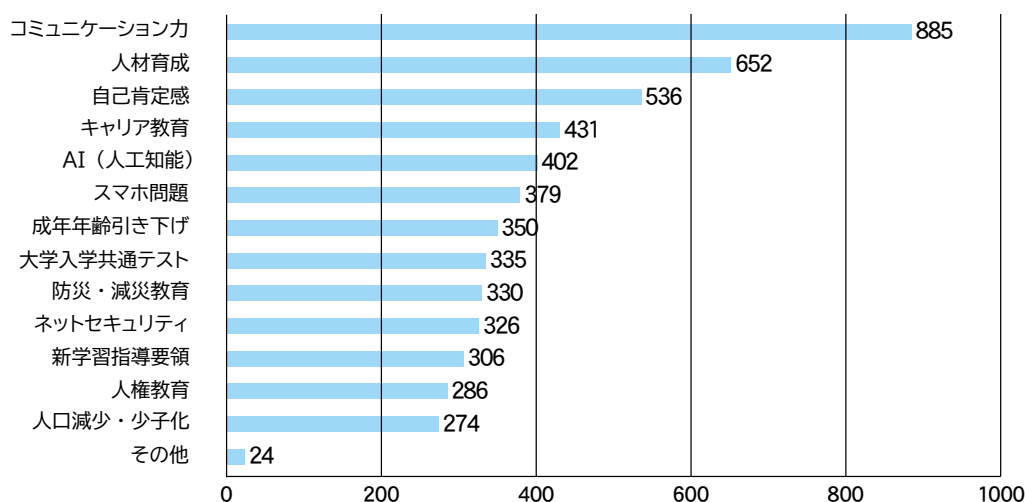
	うまくいった←→うまくいかなかった				空白	最も役立ったと思えるものを一つだけ選んでください
アトラクション	990	511	62	17	17	68
基 調 講 演 (山本シュウ氏)	1,236	248	54	26	33	1,117
分 科 会	578	792	188	17	22	232
記 念 講 演 (各 会 場)	593	692	201	56	55	173
空 白						7

1 うまくいった
2
3
4 うまくいかなかった
空白
● 最も役立ったと思えるものを一つだけ選んでください

S^{the 68th}
SAGA

Q7

今後どのような
内容の研修を
受たいですか？



北海道地区
十勝大会

TOKACHI

「身近な人と
結ぶ信頼の絆」

北海道150年の年に、十勝の大地と大地の中で、未来を担う子どもたちにとつての夢と希望を発信しましょう！



開会式

「身近な人と結ぶ信頼の絆」をメインテーマ、「北海道150年の年に、十勝の大地と大地の中で、未来を担う子どもたちにとつての夢と希望を発信しましょう！」を大会メッセージとし開催されました。

開会式は、新井田寛北海道高P連会長、山口誠大会実行委員長（前十勝支部長・帯広農業高校）の開会挨拶に始まり、来賓を代表して北海道教育委員会教育長、北海道高等学校校長協会会長からご祝辞をいただきました。

続いて、当連合会の活動に貢献していただいた1団体と20名の個人功績者

を表彰し、各学校の単位PTA会長としてその活動を牽引し連合会事業にご協力いただいた82名の方に感謝状が贈呈されました。開会式に続き、福島県相馬郡飯館村菅野典雄村長による講演が行われました。

菅野氏は、北海道帯広市にある帯広畜産大学を卒業後、故郷で営農し、現在、村長として東日本大震災の原発事故による全村避難やその解除後の村の復興という困難な課題に立ち向かいながら村づくりを進めるなど、多方面で活躍されています。この度は、『お力ネの世界』から「いのちの世界」・「この世界のへ」と題し、村づくりや社会生活を営むうえで基本となる『ま

でいライフ』について講演されました。何か物事を進めて行くにあたり丁寧な心を込めて取り組むという『までいライフ』の考えは、流されがちな日常にあつて一度立ち止まって自分や社会の在り方を考えさせる示唆に富む印象的なお話でした。

二日目は、帯広柏葉高校と帯広三条高校の2会場に別れ合計39の分科会を開催し、PTA活動のあり方、学校・地域・家庭との関わり、生徒の健全育成等多岐にわたるテーマで発表や協議が行われました。今年度は特に、グループ討議やワールドカフェ方式を採用する分科会が多く見られ、意見交換や議論をより自由に、活発にする工夫が行われたようです。



分科会

菅野氏は、北海道帯広市にある帯広畜産大学卒業後、故郷で営農し、現在、村長として多方面で活躍されています。特に、東日本大震災の原発事故による全村避難やその解除後の村の復興という困難な課題に立ち向かい村づくりを進める中で「丁寧な心を込めて物事を進める『までいライフ』を基本に据えて取り組んできたと言うお話は、一度立ち止まって自分や社会の在り方を考えるうえで、印象的なお話でした。

引き続き、当大会

東北地区
郡山大会

KOHRIYAMA

「この豊かなたくましい人づくり」

地区大会報告

変化に対応し、未来を拓く力を

第67回東北地区高等学校PTA連合会郡山大会は、「この豊かなたくましい人づくり」のテーマのもと、平成30年7月5日（木）・6日（金）、福島県郡山市のビッグパ

レットふくしまを会場として、東北各地から1,500名を超える参加者を得て開催されました。5日の大会運営会議、600名の参加があった情報交換会に続く6日の

大会は、福島県の高 school 教員でPTA担当でもある、詩人・和合亮一氏による、復興の途次にある福島を今を伝える力強い詩の朗読で幕を開けました。樽川啓実行委員長の開会宣



言に続いて、石川直哉大会会長及び牧田和樹全国高P連会長の挨拶、福島県知事、郡山市長の祝辞がありました。表彰式では、地区のPTA活動に功績のあった46名の方々に表彰状・感謝状、広報紙コンクールの入賞校18校に表彰状が贈呈されました。さらに本年度の東北地区役員の紹介が行わ

れました。続く研究協議では、6県代表による事例発表と質疑・意見交換が行われ、生徒数が減少する中、地域の学校の活性化にPTAが果たす役割が論じられました。桜の聖母短大学長・西内みなみ氏からの指導助言では、そのような状況の中で「発信力、巻き込み力、協働力

を持った大人のPTA」の存在意義と価値について、今後の活動の参考となるお話がありました。昼の休憩には、郡山商業高校チアリーディング部の澁刺としたダンス、



山口 香氏

埼玉工業高校和太鼓部の迫力ある演奏を鑑賞しました。午後は、筑波大教授・柔道家の山口香先生に「スポーツの力」と題して講演をいただきました。ス

ポーツをとおして人を育てる価値と意味、子育てにも通じるコーチングのポイント等について、様々な事例を挙げながら、わかりやすく心に響くお話をいただきました。

大会フィナーレは、楽都・郡山が全国に誇る合唱と管弦楽の演奏で、市内7校、総勢390名の高校生による壮大なステージは、参加者に大きな感動をもたらしました。

最後に、次期開催の山形県連から挨拶があり、来年の山形大会での再会を期すとともに、樽川啓実行委員長の閉会宣言により、充実した大会の幕を閉じました。

関東地区 栃木大会

TOCHIGI

「考え、行動につなげよう」

～変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支援する者として～



第64回関東地区高等学校PTA連合会大会栃木大会は、7月6日（金）7日（土）、宇都宮市のマロニエプラザを主会場に、関東各県から3,161名の参加者を迎えた。開会行事では、主催者として関東地区高等学校PTA連合会、金田会

う 変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支援する者として「をテーマに開催されました。7月6日（金）は、全

長、全国高等学校PTA連合会牧田会長からあいさつがあり、金田会長からは、歓迎の言葉とともに「子どもは親の言うこととはしないが、親のすることはする。親は子の鑑、親の行動が大切」との話がありました。続いて、PTA活動に貢献いただいた個人・団

ぞれごあいさつをいただきました。記念講演では、日光東照宮特別顧問の高藤晴俊氏により「世界文化遺産日光東照宮の謎と真実」と題して1時間半の講話がありました。徳川家康の遺言により建てられた日光東照宮について、そこに込められた願いや思い、建物の随所に見られる秘密などについて詳細に紹介があり、参加者の皆さんも興味深く拝聴しました。次回東照宮を訪れたときには、ぜひ、この講演を思い出して見学してみたいと思いますし

た。2日目の7日（土）は、会場を鬼怒川温泉の公共施設やホテルに移して、5つの分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿った発表と研究協議が行われ、有意義な研修が行われました。栃木大会では、特別支援教育分科会が設けられるのも特徴のひとつです。最後に、それぞれの会場で閉会行事が行われ、関東地区高等学校PTA連合会副会長による閉会挨拶で幕を閉じ、次年度、埼玉大会での再会を約束して大会を終了しました。

東京地区 東京大会

TOKYO

「広めよう 高めよう 慈しむ心」

地区大会報告

～あなたの未来 希望の明日へ～

平成30年6月24日（日）、全国高P連牧田和樹会長代理金田淳専務理事にご出席いただき、また東京都教育庁から主任

指導主事鈴木康司先生、東京都経営企画室長会会長澤田悟様、東京都公立高等学校退職校長協会副会長で当連合会相談役も

お願いしております天沼照夫先生にご出席いただき、第30回東京地区高等学校PTA連合会大会を開催いたしました。



荻原健司氏

今回の基調講演講師は、みなさんも良くご存

じのスキーノルディック複合で輝かしい結果を残し、キング・オブ・スキーと呼ばれる荻原健司様です。スキーを始めたきっかけから、楽しかった子供の頃のスキーの練習、現在指導者という立場になつて大切にしているこ

と、与えられている状況でトレーニングをしているのではなく、自分で考え理解して決断して取り組むことが大切だという指導法、「相手を認め、任せ、忍耐する」ことというお話は、高校生を育てる私たちにもとても参考になる内容でした。人

材育成はとても楽しいと語る姿が、印象的でした。そしてPTA事例発表では、東京都立秋留台高等学校PTA会長の溝呂木桜さんが「想いも共に引き継ぎ 育むPTA」

をテーマに、秋留台高校やPTAの取り組み、学校・PTA・家庭で子供を育てることの大切さ、行事から伝わる大人の気持ちなどを発表してくれました。



広報誌コンクール受賞者

そして各学校から応募のあった広報誌の「広報誌コンクール表彰式」です。各賞は事前に決定していますが、当日会場に足を運んでくれた参加者

に、広報誌の表紙で票を投じてもらい決める「特別賞（表紙が良かったで賞）」が注目されています。未加盟校が増えている東京ですが、コンクール

は未加盟校からの応募も多く、貴重な接点になっています。参加してくださった皆さんが、何か持ち帰ってくださった地区大会になっただけなら幸いです。

北信越地区 新潟大会

NIICATA

「育てよう未来を生き抜く力」

地区大会報告

～君たちがつくる希望の明日を～

新潟大会は7月13日（金）・14日（土）の2日間わたって、新潟市の新潟県民会館で開催されました。当日は、梅雨の時期でありましたが天候にも恵まれ、北信越5県から1193名が参加しました。

開会式で佐藤会長は「家庭、学校、地域社会が、それぞれの役割と責

任を自覚し、互いの連携のもと、子どもたちを支援する必要がある」と挨拶し、つづいて全国高P連の牧田会長の挨拶、新潟県教育次長をはじめとする来賓の方々から祝辞をいただきました。また各県でPTA活動に功績のあった31名に対して表彰が行われました。歓迎アトラクションで

は新潟県立羽茂高校の郷土芸能部による芸能と文化の島・佐渡の素朴で情緒あふれる佐渡民謡が披露され、参加者から大変喜んでいただきました。分科会は同じ新潟県民会館内の4会場に分かれて、各県から計20本の実践事例の発表が行われ、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

夕刻から行われた教育懇談会では864名を超え、フロアあり、フロアあり、いっぱい溢れた円卓を囲んで懇親を深めました。2日目の記念講演では、文部科学大臣補佐官の鈴木寛先生から「PTAに期待すること」家庭教育・地域の教育力を高める



ために」と題して、ご自身の高校時代の体験やエピソードなどを交え、これからの子どもたちの「学び」がどのように変わるか大変分かりやすく、そして楽しく、示唆に富んだお話しをしていただきました。閉会式では大会宣言の採択、次期開催県の長野県高P連松下会長から挨拶があり、最後に佐藤大会実行委員長の閉会挨拶で全日程を終了しました。

東海地区 愛知大会

AICHI

地区大会報告

平成30年度東海地区高等学校PTA連合会愛知大会は、会場を愛知県のほぼ真ん中、刈谷市の刈谷市総合文化センター大ホールで東海4県から1,384名の参加者をお迎えし開催しました。

開会式では、渡邊修造会長に続き木戸浩久全国高P連専務理事の挨拶に引き続き広沢憲治愛知県教育委員会委員様、竹下裕隆愛知県公立高等学校長会会長の祝辞をいただきました。

講演は「ココロとカラダの健康づくり～This is me～個性が光る～」と題してトータルフィット株式会社代表取締役社長梅田陽子様の講演を行いました。梅田様には特に心の健



康の大切さを中心として、「完全完璧なオトナ（P・T）を捨てる5つの法則」の話、「性格判断」等有意義な話が聞けました。また講師の一方的な講演ではなく、会場にいる方すべてが参加者となるように講演の途中での体操、参加者に「ありがとう」と書くことを書き

出してもらう（一番たくさん書かれた方は10個以上）など、全員一体となつて、楽しく参加できる講演会でした。講演最後の講演者に対する拍手も今までの講演会の中では最高といつていいほど大きなものでした。研究協議では、「学校

教育とPTA」の分野で、愛知県立鶴城丘高等学校PTA会長鳥居孝夫様から「地域に愛着を持たせるPTA活動 く花植えと清掃ボランティア活動」とおして地域に目を向ける」と題して、学校の状況（普通系列・農業系列・工業系列・商業系列を有する総合学科）、P

TA活動の内容に引き続き、地域貢献活動として、地域に愛着を持たせるため生徒と保護者が一緒に、農業系列の生徒が授業で育てた草花を市内の花壇に植える活動、さらに市内の公共施設周辺の清掃活動を行うことにより、親子の会話を増やす活動事例の発表があり

ました。続いて「進路指導とPTA」の分野で、三重県立朝明高等学校PTA会長國分直美様から「社



会に貢献できる人間づくりを目指して」と題した発表をいただきました。朝明高等学校は普通科とふくし科（福祉に対する優しい気持ちを表すため平仮名で表現）があり、約60%の生徒が就職をしている事より、学校の進路指導取組にPTAとしても積極的に協力をする

ことをとおして、生徒が自ら社会性や協調性を高め、望ましい社会人として親元から巣立つことを期待する旨の発表がありました。最後に次年度開催県の岐阜県を代表して、下野副会長の閉会の言葉で、無事大会を終えることができました。

近畿地区

兵庫大会

HYOHGO

「心時代の夜明け」

地区大会報告

く絆と感謝から生まれる心が未来をつくるく



7月15日（日）、第44回近畿地区高等学校PTA連合会大会兵庫大会

を、「心時代の夜明けく絆と感謝から生まれる心が未来をつくるく」をテーマに、近畿9府県市から2,700名弱の参加を得て、神戸市中央区の神戸国際展示場において開催しました。午前中の開会式においては、主催者挨拶、来賓祝辞に続いて、近畿地区高P連広報紙コンクール入賞校の表彰及び本年3月末をもって退任された



「人間らし

各府県市高P連会長・事務局長に感謝状と記念品が贈られました。記念講演には兵庫県加古川市出身の弁護士・住田裕子氏を講師に迎え、「変革期の今…人、意識、どう変わる」と題してご講演をいただきました。講演を聞いた参加者は、これからの時代は広い意味での

い力を育む」ことが大切であると再認識したことを思います。

午後は、実践発表として奈良県立奈良高等学校育友会、和歌山県立海南高等学校大成校舎育友会、兵庫県立小野高校PTAによる実践発表があり、それぞれの学校における地域とも連携した取り組みを報告していただきました。また、6府県市については誌上発表という形で参加していただきました。この大会は、高校生によるアトラクションにより盛り上げていただきました。開会式の前には神戸市立須磨翔風高校和太



神戸市立須磨翔風高校 和太鼓部



兵庫県立高砂高校 ジャズバンド部

鼓部の皆さん、昼食休憩時には兵庫県立高砂高校ジャズバンド部の皆さんに、ともに素晴らしい演奏を披露していただき参加者の方々に楽しんでい

ただきました。また、会場ロビーにおいては農業、水産高校等による実習品販売コーナーが大盛況でした。閉会式では、兵庫大会の大会宣言が決議され、その後、次期開催県である和歌山県からの挨拶がありました。また、2019年度全国高P連大会が京都府で開催されるにあたって京都府から開催に向けた意気込みが披露されました。「近畿はひとつ」を合言葉に近畿6府県3市が力を合わせて京都大会を盛り上げていくことを誓い、閉会宣言で締めくくりました。

九州地区

沖縄大会

OKINAWA

「絆！ 呼び起こそう ゆいまーの心」

地区大会報告

く未来を担う子ども達のためにく

第62回九州地区高等学校PTA連合会大会「結」沖縄大会が6月15日（金）、沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立

体育館を会場に「絆！ 呼び起こそう ゆいまーの心」をテーマに開催されました。前日6月14日（木）に

開催された九州地区高P連総会では、各議案が承認されました。大会当日は、台風接近する中での開催となり、

やきもきする中、九州各県より約2,200人余の参加者を迎えての大会となりました。第一分科会は、沖縄コンベンションセンター（展示場）を会場に「青少年の健全育成とPTA活動」、第二分科会は、沖縄コンベンションセンター（劇場棟）で「進路指導とPTA活動」をテーマに、それぞれ四つの単位PTAによる事例発表が行われました。宜野湾市立体育館では、第三分科会「地域の将来を担う子ども達の育

成とPTA活動」と題して開催致しました。前半は生重幸恵氏を迎えての基調講演、後半は生重氏をコーディネーターに迎え、四人のパネリストを交えてのパネルディスカッションが行われ、時間を忘れるほど活発な意見交換が行われました。各分科会とも活発な意見・討議があり、盛り上がりを見せました。

午後は、アトラクションとして、うるま市在住の高校生による現代版組踊「肝高の阿麻和利（き

むたかのあまわり）」が上演され、高校生の躍動感あふれるエネルギーに、高校生の可能性に元気をもらいました等の言葉を、多数いただきました。続いて開催された全体会では、各分科会報告の後、結沖縄県大会宣言が決議されました。会開行事では、伊敷大会実行委員長、仲西九高P連会長の挨拶に続き、個人表彰・団体表彰、広報紙コンクール表彰がありました。その後牧田全

国高P連会長、翁長雄志沖縄県知事、佐喜真淳宜野湾市長より祝辞をいただきました。

記念講演では、日本こどもみらい支援機構代表・元法務省沖縄少年院法務教官の武藤杜夫氏による「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」と題した講演が行われました。現代の子ども達を抱えるさまざまな問題がある中、いつでも自分が変わろうと思えば変われることを、自らの体験をもとに話をしました。更生を果たした教え子の参加もあり、参加した多く会員から共感と賛同をいただいた素晴らしい講演でした。

ORDINARY GENERAL MEETING REPORT

平成30年度 定時総会報告

6月23日、ホテル東京ガーデンパレスにおいて、平成30年度定時総会が開催された。

就任二年目を迎える牧

田和樹会長の挨拶の後、来賓としてお迎えした文部科学省生涯学習政策局長・常盤豊氏、日本PT



牧田会長

A全国協議会会長・東川勝哉氏よりご祝辞をい

ただいた。

【議事】

ついで議長に泉満副会長が選出され、議事に入った。

第1号議案・平成29年度事業報告、第2号議案・

平成29年度収支決算、監査報告について続けて審議された。第1号議案、第2号議案まとめて表決の結果、全会一致で本議案は可決承認され



総会風景

た。

第3号議案では定款の一部改定（定款第15条総会の議長は当該総会において正会員及び理事の中から選出する）が提案された。これは特別決議であるため総会員の3分の2以上の多数をもって可決承認された。

続いて第4号議案・平成30年度役員選任、第5号議案・会長・副会長・専務理事・常務理事の選

定報告及び会長選出地区（北信越）補充理事の選任が行われ、全ての議事が可決承認された。

【報告事項】

○会長より新役員が紹介された。（別表）

○会長は委員長・委員の委嘱、顧問・相談役の委嘱を行った（別表）

○第67回全国大会静岡大会杉浦正紀実行委員長より決算報告が行われた。

○第68回全国大会佐賀大

会西岡豊実行委員長が挨拶をした。

○牧田会長より第71回全国大会開催県として、北信越地区石川県に主管依頼を行った。

石川県高P連会長金田稔治氏が受諾し、挨拶をした。

○東日本大震災に係る義援金（最終分）が福島県高P連に寄託された。石川直哉福島県連会長が被災地の現況を報告し、謝辞を述べた。

○最後に退任する石坂兼人理事、細瀬修理事、玉田圭司理事、仲西春



平成30年度全国高P連役員

雅理事、北村正次監事、坂井正人代表監事が挨拶をした。

平成30年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員会名簿

役職名	氏名	担当	推薦区分	県名	備考
会長(代表理事)	牧 田 和 樹	総務委員	北 信 越	富 山	
副 会 長	森 崎 綾 子	総務委員 進路対策委員長	理 事 会	京 都 府	
副 会 長	泉 満	総務委員 総務委員長	理 事 会	香 川	
専務理事(業務執行理事)	金 田 淳	総務委員 賠償責任補償制度運営委員長	理 事 会	栃 木	
常務理事(業務執行理事)	内 田 志づ子	総務委員	全国高等学校長協会		事務局長
理 事	渡 辺 正 和	総務委員 研修委員長	理 事 会	岩 手	
理 事	大 石 幸 和	総務委員 調査広報委員長	理 事 会	神 奈 川	
理 事	新井田 寛	総務委員 健全育成委員長	北 海 道	北 海 道	
理 事	石 川 直 哉		東 北	福 島	
理 事	小 林 晋		関 東	埼 玉	
理 事	池 本 義 信		東 京	東 京	
理 事	佐 藤 康 司		北 信 越	新 潟	
理 事	渡 邊 修 造		東 海	愛 知	
理 事	山 田 博 章		近 畿	和 歌 山	
理 事	板 谷 正 次		中国四国	山 口	
理 事	三 根 広 次		九 州	福 岡	
代 表 監 事	木 戸 浩 久		理 事 会	大 分	
監 事	三 木 大 三		近 畿	兵 庫	
顧 問	佐 野 元 彦		前 会 長		
相 談 役	相 川 順 子		元 会 長		
相 談 役	上 村 肇		全国高等学校長協会事務局長		

総 務 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・副会長	香 川	泉 満
会 長	富 山	牧 田 和 樹
副 会 長	京 都 府	森 崎 綾 子
専 務 理 事	栃 木	金 田 淳
常 務 理 事	校長協会	内 田 志づ子
健全育成委員長	北 海 道	新井田 寛
調査広報委員長	神 奈 川	大 石 幸 和
研 修 委 員 長	岩 手	渡 辺 正 和

健 全 育 成 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	北 海 道	新井田 寛
委 員	秋 田	石 嶋 勝比古
委 員	群 馬	朝 倉 剛太郎
委 員	東 京	小 林 恵 美
委 員	長 野	松 下 妙 子
委 員	静 岡	小 山 全 司
委 員	大 阪 府	山 本 千 尋
委 員	岡 山	福 岡 隆
委 員	長 崎	小 柳 義 則

進 路 対 策 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	京 都 府	森 崎 綾 子
委 員	北 海 道	永 渕 優
委 員	青 森	中 村 美津緒
委 員	茨 城	山野辺 町 子
委 員	東 京	西 藤 義 則
委 員	福 井	宮 谷 正 志
委 員	岐 阜	下 野 泰 輔
委 員	滋 賀	清 水 あすか
委 員	高 知	小 串 和 久
委 員	大 分	和 田 俊 二

調 査 広 報 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	神 奈 川	大 石 幸 和
委 員	北 海 道	山 本 美 加
委 員	宮 城	佐 藤 泰 伸
委 員	山 梨	小 澤 浩 治
委 員	東 京	高 根 啓
委 員	石 川	金 田 稔 治
委 員	三 重	倉 田 利 寛
委 員	神 戸 市	迫 田 昌 良
委 員	徳 島	稲 井 弘 明
委 員	熊 本	牛 島 由紀雄

研 修 委 員 会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・理事	岩 手	渡 辺 正 和
委 員	北 海 道	海 東 剛 哲
委 員	神 奈 川	中 野 真衣子
委 員	東 京	池 本 義 信
委 員	富 山	山 崎 均
委 員	愛 知	渡 邊 修 造
委 員	京 都 府	中 川 ひろみ
委 員	山 口	板 谷 正
委 員	佐 賀	山 本 雅 之

賠償責任補償制度運営委員会

職 名	所属県名	氏 名
委員長・専務理事	栃 木	金 田 淳
委 員	北 海 道	井 村 美 彦
委 員	宮 城	三 塚 明 彦
委 員	埼 玉	木 田 一 彦
委 員	東 京	芦 沢 貴美枝
委 員	福 井	直 正 修 一
委 員	岐 阜	鈴 木 賢 治
委 員	大 阪 府	生 田 勝 己
委 員	山 口	山 本 貴 司
委 員	大 分	宮 原 治 郎

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

組織概要

1 本法人の目的（定款第2条）

この法人は、高等学校PTA活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与することを目的とする。

2 本法人の事業（定款第4条）

この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 高等学校PTA活動の質的向上に資する研究大会、講演会、研修会等の開催
 - (2) 高等学校PTA活動に関する調査研究
 - (3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供
 - (4) 広報紙等の刊行
 - (5) この法人の目的に沿い、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰
 - (6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動
 - (7) 賠償責任補償制度運営に関する活動
 - (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項各号の事業は、日本全国において行う。

高等学校PTA

各学校PTA加盟会員＝約4,000校／約220万人

都道府県市高等学校PTA連合会

50団体（＝全国高P連会員）

地区高等学校PTA連合会（9地区）

北海道・東北・関東・東京・北信越
東海・近畿・中国四国・九州

総会

監事（2名）

理事会（15～16名）

総務委員会

会長（代表理事）

健全育成委員会

副会長2～3名

進路対策委員会

専務理事（業務執行理事）1名

調査広報委員会

常務理事（業務執行理事）1名

研修委員会

理事 10名

賠償責任補償制度運営委員会



一般社団法人

全国高等学校PTA連合会

事務局

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

会員概況

平成30年9月1日現在

	会員団体数 ＝連合会数	各団体加盟状況		賠償責任補償制度加入状況	
		学校数	生徒数（人）	学校数	生徒数（人）
北海道地区連合会	1道	273	106,684	127	44,028
東北地区連合会	6県	451	189,165	291	126,705
関東地区連合会	7県	749	515,823	438	326,814
東京地区連合会	1都	74	52,235	21	15,014
北信越地区連合会	5県	322	166,063	121	61,620
東海地区連合会	4県	472	299,207	319	193,875
近畿地区連合会	2府4県3市	523	346,543	371	256,885
中国四国地区連合会	9県	515	238,852	283	142,300
九州地区連合会	8県	584	286,629	228	116,960
合 計	50団体	3,963	2,201,201	2,199	1,284,201

全国高等学校PTA 連合会賠償責任補償制度のお知らせ

あなたの学校も加入しませんか？
全国加盟高校の2校に1校が加入しています。

掛金

生徒1名あたり年間 **400 円** (保険料 391 円 + 制度維持費 9 円)

※補償開始日が平成 31 年 4 月 1 日の場合、補償期間中の加入については、月ごとに掛金が減額となります。

補償期間

平成 31 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日

補償の範囲と支払済高額事故事例

＜生徒もしくはPTAに過失があった場合が対象となります＞



補償の範囲	補償限度額		事故発生 件数割合
1.生徒の行為に起因する賠償責任 (生徒個人の賠償責任)	対人・対物合算 ^(注) 1事故1億円 自己負担額 1 事故 5 千円 (注) 対人事故・対物事故合算して 1 億円が限度となります。		99%超
2.PTA活動の遂行に起因する賠償責任 (PTAの賠償責任保険)	対人	1名5千万円・1事故5億円	1%未満
	対物	1事故5千万円	
	自己負担額 1 事故 1 千円 (注) 対人事故・対物事故それぞれに適用されます。		
	保管物	加害者1名 10万円 保険期間中 500 万円 自己負担額1事故5千円	

年度	支払金額(千円)	事故内容
19年度	87,915	無灯火の自転車 ^(注) で歩道を走行中、後ろから人に追突し転倒させ、脳挫傷により要介護状態となり、死亡させた。 (過去最高支払金額)
24年度	40,206	自転車 ^(注) で歩行者と衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。
24年度	20,040	ゴルフの練習中にゴルフクラブが友人の左目にあたり失明。
26年度	23,602	自転車 ^(注) で歩行者に後ろから衝突し、脳挫傷を負わせ、死亡させた。

★上記のとおり自転車による人身事故が高額支払いになる傾向がありますが、自転車事故に限らず国内における事故を24時間、幅広く補償しております★

詳しくは、「全国高P連賠償責任補償制度」手引き・チラシをご覧ください。
(各学校へ1月下旬にお送りしています。)

●制度についてのお問い合わせ窓口

一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会
東京都千代田区神田佐久間町 2-1
奥田ビル 301 号
TEL03-5835-5711

●引受保険会社

引受幹事保険会社	東京海上日動火災保険株式会社 (担当: 公務第二部 文教公務室)	TEL03-3515-4133
共同引受保険会社	AIG 損害保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社	TEL03-6848-8480 TEL03-3259-4061 TEL03-3349-9588

AIG 損害
一般社団法人 全国高等学校 PTA 連合会後援

AIG 高校生外交官プログラム
(参加費無料)
<http://www.highschooldiplomats.org>

「育てたいのは、
子供たちの未来。」

私たちは AIG 高校生外交官プログラムを協賛しています。

AIG 損害保険株式会社
tel: 03-6848-8500 <https://www.aig.co.jp>

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

7/24 時間保険
住まいの保険
ケガの保険

www.ms-ins.com

TOKIO MARINE NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

SOMPO
ホールディングス
保険の先へ、進む。

損保ジャパン日本興亜

損保ジャパン日本興亜は
SOMPOホールディングスの一員です。
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-3111
(公式サイト) <http://www.sjnk.co.jp/>

